

宿縁

十二月号

みんな同じ空の下に

生きている



今、子どもたち、とりわけ中学生の読書離れが深刻な問題となっています。本を読むことによって理解力や想像力が養われ、相手の立場に立って物事を考えられるようになり、また自分が考える以上の世界を広げることが出来ます。

インターネットやフェイスブックの普及は知らず知らずのうちに情感豊かな人間性を蝕んでいるといえないでしょうか。

障がい児教育にその身をささげている向野幾世さんから「おかあさん ぼくがうまれ

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

てごめんなさい」というタイトルの一冊の本をいただきました。

奈良県明日香村の養護学校の担任として、十五歳で亡くなった重度脳性マヒの少年山田康文君との出会いを通じその家族愛を記した深い感動の記録です。

向野さんの頭に浮かぶかぎりのことばの組み合わせの中から、やっと、康文君が舌を出すことと(イエスのサイン)、目をつぶること(ノーのサイン)、そして全身の緊張という障害を使って、話をするのでできあがったのが母へのいたわりと思いやりに満ちた次の詩です。

ごめんなさいね おかあさん
ごめんなさいね おかあさん
ぼくがうまれて ごめんなさい
ぼくを背負う かあさんの
細いうなじに ぼくはいう
ぼくさえ 生まれなかったら
かあさんの しらがもなかったらうね
大きくなった このぼくを
背負って歩く 悲しさも
「かたわな子だね」とふりかえる
つめたい視線に 泣くことも
ぼくさえ 生まれなかったら
ありがとう おかあさん
ありがとう おかあさん

おかあさんが いるかぎり
ぼくはいきていくのです

脳性マヒを 生きていく
やさしさこそが 大切に

悲しさこそが 美しい
そんな 人の生き方を
教えてくれた おかあさん

あなたがそこに いるかぎり

康文君の詩の初めの部分が出来たとき、見せられたおかあさんがせり上げる思いで綴ったのが次の詩です。

私の息子よ ゆるしてね
わたしのむすこよ ゆるしてね
この母さんを ゆるしておくれ
お前が 脳性マヒと知ったとき
ああごめんなさいと 泣きました
いっぱいいっぱい 泣きました
いつまでたっても 歩けない
お前を背負って歩くとき
肩に食いこむ重さより
「歩きたかろうね」と 母心
“重くはない”と聞いている
あなたの心が せつなくて
わたしの息子よ ありがとう
ありがとう 息子よ
あなたのすがたを見守って
お母さんは 生きていく
悲しいまでの がんばりと
人をいたわるほほえみの
その笑顔で 生きている

脳性マヒの わが息子
そこに あなたがいるかぎり

このお母さんの心を受けとめるようにして康文君は、後半の詩づくりにまた挑んだそうです。そしてこの詩をのこして、二カ月もたらずして短い生涯を終えていきました。

だれにあやまる必要のない“いのちの誕生”のはずですが、苛酷すぎる十五年間の暮らしの中で、少しずつ重く、重くなり、ついに、「ぼくが生まれてごめんなさい」と言わずにはいらなかったのでしょうか。それだからこそ、いつそ母子は、ともにいたわりあつて生の意義を確かめたのです。

著者の向野さんは「あとがき」で、七十六年を重度な脳性マヒ者として生き続けたご自分の父の無言の教えに導かれたことに触れています。

『「人はうすあかりの冥道を生きている。人は迷界より離れることなし」と父はよく私に言い聞かせました。うすあかりのほんの目の光をたよりにお前は歩いているのだよ。それですべてが見えてるように思っているが、結局人は迷界をただようばかり、という父のことばのきびしさが私は好きでした。人としての誇りはもちろん、父として、男としての誇りも力も働きも、すべて一切切切失われた中で生きねばならなかった父。だからこそ、人の心のありようの深奥にたどりついたのでしょうか。迷界にある人の弱さや、みにくさや、いたらなさのすべてを知って、許しをこうしていたのでしょうか。どんなときにも、ただ黙々と合掌するしか許されない父でした。』

【寺灯雑記】

○報恩講を営む

11/20、21

浄土真宗における最も大切な行事である報恩講法要が、例年通り2日間にわたって勤められました。

20日の夕方5時から始まった速夜法要にあわせて、皆さまが和紙に描いた沢山の絵灯籠が山門からの参道に置かれるはずでしたが、あいにく雨が降り出したために今年は本堂向拝と内陣に設置され、いままでと違った幽玄な光と絵の光景が参詣者の目を楽しませてくれました。

そして閨法会館では「親鸞聖人と過ごす夕べのコンサート」が開かれ、麻木さんの司会とウクレレ、越田さんのギター、前住さんのボーカルによるなつかしい歌の数々が披露されました。その中で、NHK朝のドラマ「マッサン」で唄われたスコットランド歌謡も取り入れられ、和やかな音楽会となりました。

本堂での速夜法要は「初夜礼讃偈」を誦し、本願寺第3代覚如上人が書き記された「親鸞聖人御伝鈔」下段第6段のご往生の場面を拝聴したあと、「帰るところがある」と題した法話をご住職と前住さんからいただきました。

晴天で明けた21日は晨朝法要、そして1時から「讃仏偈」の日中法要、午後1時から近隣寺院ご法中の出勤による「正信偈六首引」の満座法要が勤められ、午前と午後の2回にわたり栃木県慈願寺住職池田行信師から「洛陽遷化」・「転迷開悟」と題して分かり易い法味をお話しくれました。またあずき粥、お斎の接待も好評でした。

○門信徒会役員会を開く

11/30

今年度第5回門信徒会役員会は17名が出席して開かれました。

- ① 10月に行われた第26回文化講演会の決算承認と総括
- ② ホームページのリニューアル報告
- ③ 前住職の秋の瑞宝小綬章叙勲受賞と衆徒聡子さんご結婚の慶事へのお祝い金の件
- ④ 門信徒会費検討委員会答申について
- ⑤ その他

この中、③の叙勲受賞とご結婚祝いに、門信徒会として各二十万円を贈呈することが承認されました。また、④の門信徒会の会費を含めた検討委員会は、この役員会に先立って門徒総代2名、門信徒会会長と副会長1名、会計担当理事2名に任職、前住職、前坊守が加わって第1回目の討議がなされ、役員会に報告されましたが結論は次回に持ち越されました。

○賑やかに年末懇親会を楽しむ

12/14

壮年会の今年最後の法座が「苦」をテーマに行われ、13名の出席者はそれぞれの観点から「苦」について発言し、話し合いをしました。

最後にまとめの法話として、前住さんから「世間の苦のとらえ方が仏法を通して見ると大きく転換されてくるのではないかと話され、向野幾世さんの著書「おかあさん ぼくが生まれてごめんなさい」の中に

ある言葉を紹介しながらその重さと感動を語られました。

壮年会法座のあと、六時から市川真間駅そばの料亭「大松」で婦人会を交えた34名が参加して恒例の年末懇親会が催されました。最初にご住職は挨拶で、「今年1年の諸行事も恙なく遂行し、壮年会、婦人会のお手伝いに感謝するとともに、来年もしつかりと聴聞の姿勢を続けていきたいと思います。」の言葉がありました。

今回はお料理を主体に考えた石井壮年会会長が申しましたが、高級日本酒や焼酎の差し入れも多くあり、賑やかなおしゃべりとカラオケで大いに盛り上がりました。

【ご案内】

☆元旦修正会(初参り)

*一月一日(祝日) 午前八時より

おつとめ…正信念仏偈

年頭法話…住職、前住職

京風お雑煮の接待

(九時半頃終了予定)

浄土真宗の多くのお寺で元旦会(修正会)が行われます。元旦会は「元旦の法要」という意味です。新年を祝うとともに、今年も一念仏申す人生を歩む決意を新たにします。

さて、初詣は、神さまや仏さまの前で手を合わせ、自分の願いが叶うよう祈りを捧げるものだと思います。私たちは願いが叶ったならばご利益があったと思いい、さらに別の願いが起ってきます。どれだけの願いが叶ったとしても、満たされることはないでしょう。反対に願いが叶わなかつ

たならば、「こんなに祈っているのに」という思いにもなります。願いが叶っても叶わなくても、自己中心的な思いから抜け出すことはできません。

浄土真宗は、私の願いを叶えてもらうのではなく、阿弥陀如来の願いを聞く教えです。阿弥陀如来は、苦しみ悩み傷つけあう私たちのことを決して見捨てることなく、安らぎを与えようと願われつづけています。

一年の始まりを元旦会にお参りし、共に阿弥陀如来に願われている人生であることを確認したいものです。皆さままでお参りください。

【法座・行事案内】

○浄土和讃に学ぶ

十二月二十日(土) 三時

○山門・参道清掃奉仕

十二月二十八日(日) 十時

○婦人会総会・新年会

一月十日(土) 十一時

○常例法座

一月十八日(日) 一時

○門信徒会役員会

一月十八日(日) 三時半

○和讃に学ぶ

一月二十四日(土) 三時

○壮年会総会・新年会

一月二十五日(日) 二時半

【十二月の掲示板のことば】

人に勝より 自分に負けるな